

特別支援学級 生活単元学習指導案

令和6年9月13日（金）5校時（13:35～14:20）

荒川区立峡田小学校

第1学年～第6学年35名

研究主題 自分のよさを見つけ、学び合うキャリア教育の実践

1 単元名 「ひまわり商店街をつくって、お世話になっている人たちに楽しんでもらおう！」

2 単元の目標

- ・今まで学習してきたことを活かし、商品になるものを作ることができる。【知識及び技能】
- ・お店をよりよいものにするため、意見を伝えたり聞いたりすることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・準備や話し合いを通して、異学年の友達と関わり、協力して活動しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元設定の理由

（1）児童の実態

本学級は、知的障害を主とする特別支援学級で、広汎性発達障害や自閉症スペクトラム、ダウン症候群等、障害や実態の異なる児童で構成される。児童は全学年で35名在籍しており、ほとんどの学習は、1～3学年（1，2組）と4～6学年（3組）に分かれて行っている。

その一方で、年間を通じ、生活単元学習や学級活動では縦割り班での活動を取り入れ、高学年の児童がそれぞれの班をまとめる役割を担っている。活動では、高学年の児童は、自分たちが低学年だった時にしてもらったように、リーダーの立場に立ち、低学年を明るくサポートしたり親切に教えたりしている。低学年の児童は、優しく導いてくれる高学年に対し、尊敬や憧れの念を抱き、いつか自分もそのような姿の上級生になりたいと、身近で望ましい具体的なモデルになっている。

（2）教材について

本単元では、様々な既習事項を生かして店を企画、準備、実行する。児童にとって店を作り、お世話になった人に楽しんでもらうという目標は具体的でわかりやすく、興味関心をもちやすいため、見通しをもち、進んで取り組むことができると想定される。また、企画や準備、試行をするうえで、思っていたのと違っていただけだった場合、「店を作って楽しんでもらうためにはどうしたらよいか」という当初の目的や観点に立ち返り、自分たちで考え、軌道修正し、次の活動へ繋げていくことで、主体的に学び、達成感を得ることができると考えた。

各グループの担当教員は、失敗しないようフォローする、ルールを敷くのではなく、失敗も含めて見守る。そして、よいところをその都度その瞬間に言葉にして伝えつつ、児童が自分たちの手で

店を作り上げることができたと、達成感や自己肯定感を感じられることに重きをおいていきたい。

4 評価規準

	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
生活科・理科・社会	商店街を見学し、商品やそこで働く人々の様子、店の種類等に気付いている。	商店街を見学したりインタビューをしたりして気付いたこと等を自分たちの店作りに生かしている。	商店街を見学し、店の種類や商品、そこで働く人々について興味をもち、自分なりの発見をしようとしている。
生活単元学習	楽しんでもらう店を作るために必要なものをそろえたり作ったりしている。	楽しんでもらう店を作るための計画を立てたり、準備をしたりしている。目的に照らし合わせて活動を工夫している。	見通しをもち、友達と力を合わせ、楽しく店作りをしようとしている。
国語	インタビューや話合いで、相手に注目して聞いたり、分かりやすく話したりしている。	インタビューや話合いで、声の大きさや姿勢、注目についてよりよい仕方を考えている。	インタビューや話合いで、楽しく話したり聞いたりしようとしている。
算数	材料や商品の数を数えたり和や差を求めたりできる。	材料や商品の数を数えたり、和や差を求めたりして店作りの工夫につなげている。	材料や商品の数を数えたり、和や差を求めたりしようとしている。

5 本単元とキャリア教育（ひまわり学級）

○ 自自分で考え、気付く力……………取り組みたいことやがんばりたいことを進んで見つけることができる。 (課題対応能力) ◎ 友友達等と関わり、学び合う力……友達の話聞き、一緒に活動できる。 (人間関係形成・社会形成能力) ○ ふ活動の振り返りができる力……………めあてに対しての楽しかったことやよかったことについて振り返ること (自己理解・自己管理能力) ができる。 ◎ 見将来を見通す力……………楽しい活動をイメージして進んで活動することができる。 (キャリアプランニング能力) 本単元は、お世話になった方々のためにお店を開き招待するという具体的な目的に向かって児童自身が自ら考えたり協力したりしながら活動することで「将来を見通す力」を育成することを意識していく。また、活動後には、観点を絞って個人で振り返りをすることで「活動の振り返りができる力」を育成していきたい。さらに、学級全体で解決したい事柄については、グループの代表児童に相談をもちかけ、解決方法を見出していくことで、「自分で考え、気付く力」の育成を意識していく。
--

6 目標にせまるための手立て

振り返り活動の充実

① 振り返りの視覚化

教室に単元全体の活動の流れが一目で分かる活動予定表を掲示する。児童の意志を尊重し、児童の思考の流れに沿ったものになるよう、単元の途中でも随時調整し、順番を入れ替えたり内容を変更したりできるようにする。

また、活動の見通しをもち学習の記録を残すために写真付きの生活単元ノートを毎時間用意し、活動のはじめに見返すことで、前時までの学習を振り返ることができるようにする。

②教師による言葉掛けと振り返りの視点についての工夫

活動中の児童の様子を教師がつぶさに見て取り、些細であっても変化や成長を即時、且つ具体的に言語で伝え、フィードバックすることで、児童はできるようになったことを自覚することができるようにする。

話し合い活動の充実

③主体的な話し合い活動にするための工夫

日頃お世話になっている方々に楽しんでもらうためにお店を開くという学習のゴールを設定し、その目標に立ち戻って話し合い活動が行われるようにする。何か問題が起きた時は、教師主導で解決するのではなく、グループの代表者を集めて相談し、アイデアを募り、それを全体に返す等、必然性のある話し合い活動を設定し、課題解決の経験を積めるようにする。

④児童同士で話し合いを進めるための工夫

話し合いを、全学年で行う全体会議、4～6年生で行う経営会議、店長のみで行う店長会議の3種類設定することで、スムーズに話し合いを行えるようにする。各店の方向性や全体に関わることは経営会議、各店の情報共有などは店長会議で話し合わせることで、教員の介入を最低限におさえ、高学年が中心となって活動を進めることができるようにした。

その他の工夫

⑤個に応じためあての設定の工夫

授業の終わりに次時の予告をすることで活動を途切れさせず、めあてをもつことができるようにする。めあては、選択肢から自分で決めることを大切にする。また、設定しためあてを活動中も意識できるようにホワイトボードに掲示する。

⑥活動形態の工夫

児童の興味関心と、普段の学習に対する取り組みの様子をもとにグループを構成し、低学年は高学年を慕い、高学年はグループをまとめる役割を担い、自覚をもって活動を進めることができるようにする。

7 単元の概要

(1) 単元の指導計画 ※全…1～6年生、高…4～6年生

次	小单元名	時	児童	学習内容	見いだせる キャリア教育 で育みたい力
1	今までの学習を振り返ろう！	1	高	・学びの道しるべで学習を振り返り、お世話になっている人たちを楽しませるためにできることを考える。	ふ
	商店街づくりの計画を立てよう！	2	高	・商店街をつくっていくことを知る。 ・単元計画を考える。 ・担当する店を決める。	見
	商店街を見に行こう！	3	全	・1～3年生は、商店街をつくっていくことや、担当の店、第1，2時で決まったことを知る。 ・商店街を見に行く。	自 見
	見学して分かったことをまとめよう！	4	全	・商店街を見学して分かったことを出し合う。 ・どんなお店にしたいか、ルール等を話し合う。	自 友 見
	お店づくりの計画を立てよう！	5	高	・お店づくりの計画を立てる。 ・お店づくりに必要なものを用意する。	自 見
	お店の準備をしよう！	6 7 8 9 10	全	・商品を作る。 ・お店づくりに必要なものを作る。	友 見
	ひまわり商店街の練習をしよう！★本時	11	全	・参観者に客になってもらい、実際にお店をやる。 ・本番に向けて練習をし、感想を出し合い改善につなげる。	友 ふ
	練習の振り返りをしよう！	12	高	・前時で出た意見をもとに、計画を再考する。	ふ 見
2	お店の準備をしよう！	13 14	全	・計画をもとに準備を進める。 ・商品やお店づくりに必要なものを作る。	自
	インタビューの準備をしよう！	15 16	全	・次時のインタビューに向けて、質問内容を考えたり、インタビューの練習をしたりする。	自 友

インタビュー をしに行こう！	17 18	㊦	・商店街や各々のインタビュー先に行って話を聞き、お店づくりについて知る。	自 友
インタビュー で分かったことをまとめよう！	19 20	㊦	・インタビューを通して学んだことを店ごとにまとめる。 ・インタビューした内容をもとに、計画を練り直す。	友 見
お店の準備を しよう！	21	㊦	・計画をもとに準備を進める。 ・商品やお店づくりに必要なものを作る。	自 見
	22	㊦	・商品を使わずにリハーサルをする。 ・リハーサルをして役割や商品の最終確認をする。	友 友
ひまわり商店 街にお客さん を呼ぼう！	23	㊦	・保護者や教員、主事さん、旗振りさんなどを招待して、買い物をしてもらう。	友
振り返りをし よう！ お礼の手紙を 書こう！	24 25	㊦	・お客さんからのフィードバックを見るとともに自分たちの成果と課題を振り返る。	自 友
		㊦	・インタビューや見学を引き受けてくださったお店の方々に、振り返りを踏まえて感謝の手紙を書く。 ・次の活動の見通しをもつ。	自 見

(2) 児童が出店する店

店	販売するもの	担当教員
雑貨屋	スウェーデン刺繍やプラ板で作ったもの	松下
本屋	詩集や句集、カレンダー	海老名
カフェ	クッキーやお茶	石田
アクセサリ屋	リボン結びやストロー通しで作ったもの	本間
八百屋	紙粘土で作った野菜	青木

8 本時の計画

(1) 小単元名「ひまわり商店街の練習をしよう！」

(2) 本時のねらい

練習を通して、お店をもっとよくする方法を探そうとしたり、見付けたりすることができる。

(3) 本時の展開（1 1/2 5時間）

	児童の活動	◇指導上の留意点
導 入 5 分	1 今までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを決める。	◇学習過程を一目で振り返ることができる模造紙を用意し、視覚的に振り返ることができるようにする。 ◇めあては選択肢から選び、ホワイトボードに顔写真のマグネットを自分で貼ることで、めあてを意識して活動できるようにする。
ひまわり商店街の練習をして、お店をもっとよくする方法を探そう！		
展 開 25 分	3 お店を開く準備をする。 4 お店を開く。 5 客にインタビューをし、よかったところなどを聞く。	◇教師は、めあてを達成できている児童に肯定的なフィードバックをする。 ◇途中で一度止め、練習の目的を再確認する。 ◇店長（5，6年生）が質問する。
終 末 15 分	6 店ごとに振り返りをする。 お店の改善点など、練習した感想を伝え合う。 7 めあてに対する振り返りを行う。 8 次時の見通しをもつ。	◇教師は、児童から聞き取ったことをミニホワイトボードに記録する。 ◇めあてが書いてあるホワイトボードに花丸か丸のマグネットを自分で貼ることで、自己評価できるようにする。

9 授業観察の視点

① キャリアカウンセリングの実施

単元全体を通して随時キャリアカウンセリングを行い、児童が自力で課題解決をする支援を行う。キャリアカウンセリングを行う際は、「言語化」、「価値付け」、「選択肢」の3点を教師・支援員・介助員全員が意識できるよう、共通理解を図っておく。キャリアカウンセリングに関する本校の共通認識は「傾聴」、「共感」、「助言」であるが、本学級には思いを言語化することが困難な児童が多く在籍

しているため、大人が言語化の手助けをし、言語化できたことを価値付けて学習につなげる。また、相談を受けたときに一方的に助言をするのではなく、選択肢を示して自分で決めさせることで、意思決定する力を育んでいく。本授業においては、主に練習の最中などにキャリアカウンセリングを行う。

②めあてに沿った振り返り

めあてを意識しながら活動に取り組み、めあてに沿った振り返りができるよう、各々のめあてをミニホワイトボードに記し、いつでも確認できるようにする。さらに、各グループの担当の教員がめあてを確認するよう随時声掛けを行うことで、意識化できるようにする。